

雄飛の滝線歩道

■行程 雄飛の滝線歩道入り口 駐車場 ～ 雄飛の滝線分岐2.3km
 ■所要時間 往復1時間50分

■行程 雄飛の滝線分岐点 ～ 雷霆の滝
 ■所要時間 往復約40分



コース概要

四季折々と、美しい渓谷美を魅せるスッカンの流れは、やがて八方ヶ原を源流とする桜沢と合流し鹿股川となります。スッカンの沿うように遊歩道が伸びています。新緑・紅葉に彩られた木々と岩肌が織りなす渓谷美を見ながら、手頃な距離と時間でいくつもの滝と見所も豊富な遊歩道です。

「八方ヶ原線分岐」より「雷霆(らいてい)の滝」・「咆哮霹靂(ほうこうへきれき)の滝」へ足を伸ばして散策されるのもお勧めです。

特に、夏にこの遊歩道を散策されることをお勧め！太陽の光に注がれる木々の緑と、スッカンのせせらぎ、下流から吹き上げる涼しいそよ風が暑さも忘れさせてくれます。

みどころ

【スッカンの沢】

呼び名の由来…スッカンの流れる水は、場所によっては青白く見えます。これは、スッカンの沢が高原山のカルデラ跡を水源とし、鉱物や炭酸等の火山の成分が多く含まれている水が流れているためです。そのためこの沢の水は昔、辛くて飲めないことから「酔辛い沢」等と呼ばれていました。この呼び方がなまって、今の「スッカンの沢」となっています。

【素簾の滝】

歩道の対岸の岩肌をいく筋にもなって流れ落ちる滝で、まるで白い糸が岩をおおいつくす簾(すだれ)の様にみえることから、「すだれ滝」とも言われています。

【仁三郎の滝(舞姫滝)】

滝を最初に見つけた人の名をとって「仁三郎の滝」と言われています。舞踏場のような滝つぼの上に流れ落ちる滝が、白いスカートをもった乙女のようにみえることから舞姫滝とも言われています。

【雄飛の滝】

岩に囲まれた薄暗い場所に差す一筋の光のように見え、夕日が暮れるのも忘れるくらい美しいと言われることから名前が付いた滝です。滝の上にある観瀑台からその流れを見ることができます。

【スッカンの橋のカツラの大木】

樹齢は不明ですがこのカツラの大木は、塩原三恩人の一人である奥蘭田(おくらんでん)が明治23年に塩原温泉を世に紹介した「塩原紀勝(えんげいきしょう)」という本の中で「蟒蝮柱樹(もうかつけいじゅ)」(大蛇のようなカツラの大木)としてふれられています。現在は見所の一つとして、この大木を巻くようにして遊歩道が整備されています。

【雑刀岩】

スッカンの橋を渡った先にある見事な岩は、その形から雑刀岩と名付けられました。この岩は、高原山の噴火で流れ出した溶岩が、冷えて固まる事でできる柱状節理という現象によって作り出されたものです。この歩道には雑刀岩のように、火山によって作りだされた見事な岩肌が多く点在し、観察することができます。